

市民協働推進課

■第1回男女共同参画推進市民会議録

日時	平成19年8月21日(火) 午後6時30分～8時30分
場所	市役所8階801会議室
出席者 (敬称略)	委員… 岩城末子、大橋仁、小澤和彦、小野公一、菅野昭彦、工藤阿貴、 佐野純夫、千田有紀、高田素子、三上かおり、吉川良子 市側… 市長、企画政策室長 事務局… 市民協働推進課男女共同参画担当職員
議題	1 委嘱状交付 2 市長あいさつ 3 自己紹介 4 委員長選任 5 議題 (1) 男女共同参画推進市民会議運営に関する基準について (2) 市民会議の経緯について (3) 会議のあり方と今後の日程について (4) その他
議事要旨	1 各委員への委嘱状交付 2 邑上市長挨拶 3 各委員及び事務局職員の自己紹介 4 会議の設置趣旨の説明 5 委員長選任…高田素子委員に決定 6 議題 (男女共同参画担当副参事) ●男女共同参画推進市民会議運営に関する基準について… 会議と会議資料の公開について説明

●市民会議の経緯と背景について…

- ①前回(第5期)女性行動計画推進市民会議報告書作成の経緯と今期(平成16年度～20年度)報告書策定のための提言について
- ②第4期基本構想長期計画の中での男女共同参画計画の位置づけ
- ③男女共同参画計画策定に至る背景及びその根拠

● 会議のあり方と今後の日程の決め方及び開催場所について…

(高田委員長)

- 今後の委員会の進め方について
- 第5期の反省及び今期の指針

(事務局)

- 今後の事務連絡の説明

次回

平成19年9月19日(水)19:00～
武蔵野商工会館 第一会議室

第2回男女共同参画推進市民会議録

日時	平成19年9月19日(水) 午後7時～9時10分
場所	武蔵野商工会館第1会議室
出席者 (敬称略)	委員 岩城末子、大橋仁、小澤和彦、小野公一、菅野明彦、 工藤阿貴、佐野純夫、千田有紀、高田素子、林朋子、三上か おり、吉川良子、男女共同参画担当副参事、 事務局 男女共同参画担当職員
議題	1 武蔵野市男女共同参画計画の概要と推進状況について 2 男女平等参画のための東京都行動計画の概略について 3 その他
議事 要旨	(事務局) 1 平成17年度武蔵野市男女共同参画計画推進状況調査報 告書の概要(基本目標、課題、施策の方向、事業実績につい て、最新データを交えながら報告) ・市民協働推進課の男女共同参画施策についての説明 (その際、むさしのヒューマン・ネットワークセンターと子育て SOS 支援センターの状況について委員より、補足説明を受け る。) 2 「男女平等参画のための東京都行動計画—チャンス&サ ポート東京プラン 2007—」の概要(基本的な考え方と重点課 題)についての説明 3. 次回の会議予定について
次回	10月18日(木)午後7時～ 場所 商工会館5階第1会議室

市民協働推進課

■第3回男女共同参画推進市民会議録

日時	平成19年10月18日(木) 午後7時～9時
場所	武蔵野商工会館第1会議室
出席者 (敬称略)	委員 岩城末子、大橋仁、小澤和彦、小野公一、菅野昭彦、工藤阿貴、 佐野純夫、千田有紀、高田素子、林朋子、三上かおり、吉川良子 事務局 男女共同参画担当職員
議題	1 平成19年度武蔵野市男女共同参画推進会議について 2 武蔵野市男女共同参画に関する意識調査(平成14年)について 3 武蔵野市女性行動計画推進市民会議報告書(第五期)について 4 意見交換 5 その他
議事 要旨	(事務局) 1 平成19年度武蔵野市男女共同参画推進会議で検討課題についての報告 2 平成14年度意識調査の内容と結果についての説明 (委員長) 前期(第五期)市民会議と今期への抱負について (各委員からの意見) ・ ヒアリングは自分たちの理解を深める上で有効である。 ・ アンケート調査については、調査のターゲットを絞る必要がある。 ・ ヒューマンネットワークについてはSNSの充実を図り、積極的に情報発信をしていく。 ・ メインストリーミング化の問題点として施策や課題が多岐に渡り、網羅的。男女共同参画の視点から生活に緊密なものに限り、それぞれ得意

	<p>分野を活かして、連携のシステムを再構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後5年間に解決したい課題を絞り、目的・組織・戦略を明確にする。 ・ 網羅的になりがちな課題の中から〈仮説〉を導き出し、既存のものとは別の切り口から調査する。 ・ ネットワークの中には“隙間”が沢山あり、そこに入り込みがちである。ネットワークの様々な課題を把握して管理していく、専門性を持った人たちも参加した調整機関が大事である。 ・ 武蔵野市の特徴を活かした施策づくりが必要。成熟した市としての特徴を活かす。 ・ 審議会に参加する人たちをもっと増やすような、参画のためのセミナーの開催が必要。 ・ DV対策をきちんと整え、駆け込むところがどこにあるのか、お世話になるところにすぐ行けるかどうか的大事。バーチャルよりも、お付き合いが出来るように仕向けるのが武蔵野市の施策であるべき。 ・ 社会に参画したくても出来ない人にとってのバリアを具体的に調査した上で計画をたてる。 ・ 武蔵野市の人たちが何に困っていて、何が欲しいのかということをまずはっきりさせる。 ・ 具体的に制度をどういう風に変えて行けるのかという設計図を、具体的に描く。他の地域で起こっていることを参考、どういくことが起こりえるのかという調査をし、武蔵野市が進むべき方向を選択していく。 ・ 情報を得られない人、孤立している人にどういう風に具体的に情報を提供していくことが出来るのかを考えたい。 ・ 性別、役割分担みたいなものの根強いところをどうにかしていかなければならないと思う。 ・ 情報の出し方をきちっとして、うまく世の中に伝わっていくような伝え方を考えたら良い。 ・ 市側に要望が実現できない理由があるのなら、回答してもらう必要がある。 ・ 「お父さんの地域力・お母さんの仕事力」をめざす。
<p>次回</p>	<p>平成19年11月28日(水) 午後7時～ むさしのヒューマン・ネットワークセンター会議室</p>

市民協働推進課

■第4回男女共同参画推進市民会議録

日時	平成19年11月28日(水) 午後7時～9時
場所	むさしのヒューマン・ネットワークセンター会議室
出席者 (敬称略)	委員 岩城末子、大橋仁、小澤和彦、菅野昭彦、工藤阿貴、 佐野純夫、千田有紀、高田素子、林朋子、三上かおり、吉川良子 事務局 男女共同参画担当職員
議題	1 男女平等雑誌『まなこ』について 2 むさしのヒューマン・ネットワークセンターについて 3 今後の市民会議の進行について 4 その他
議事 要旨	1. 『まなこ』森治美編集長から編集の指針・編集を通しての感想と現状の問題点などについての説明 <まなこ編集に関わったことのある委員の意見> ■ 編集作業に関わってくれる人が減少しているので、もっと能率的に、システム化できれば、やってくれる人も増えるのではないかと。 ■ 文章のうまい人もかなり多くて、レベルはかなり高いと思う。 ■ みんなで叩き合って育てあってきたのが、貴重な経験。お互い学びあう場として、貴重な経験になるので、市民の中に広げて、また一つ違う「まなこ」というところも広げていきたい。 2. むさしのヒューマン・ネットワークセンター運営協議会岩城末子会長か

らヒューマン・ネットワークセンターの現状についての説明—現在、組織について試行体制をとっており、現場と運営体制との役割分担を今年度中に整理し、会則や要綱の見直しをしている。

<むさしのヒューマン・ネットワークセンターについての各委員の意見>

■ 長期計画では、センターを男女共同参画推進の拠点と位置づけようという方向もあるわけで、センターの存在意義を条例化していくことが大きなテーマであると思う。その意味では、単なる広場的なもの以上の存在意義を納得させるために、目的とか理念をアピールする時期にきていると思う。

■ 子育て世代のサークルは増えているので、誰でもが自由に集える場としての機能は必要である。子育てのテーマとか、日常起こりそうないろいろなテーマを連携した形で、複合施設的な形で位置づけると、集うだけでない社会的な関係性というのを構築していけると思う。

■ 女性センターに不可欠な2つの機能は、男女共同参画関係の情報のライブラリーとしての役目と、相談機能、それもDV被害者の相談にのれる事。それがあ程度できないと意味がない。予算や人材をつぎ込んで実現するのか、今のセンター的なものを大事に育てるのか。

■ 場所としては大変いい場所なので、集う場所という意味ではとてもいいと思う。

■ 一人でふらっと来て、その中で地域活動みたいなものができたりとか、NPOに入っていけるとか、そういう窓口としての機能があるといいと思う。こんなものがあるのかと気づかされるような情報というのはインターネットであまり出会えないので、特に女性関係に関してのそういう情報を蓄積する場があるといいと思う。

■ 活動がぶれてしまっているという印象を受けたので、改めてミッションとネーミングを議論する必要があるのでは。

■ シングルマザーの悩みとかを、いきなり市の福祉や母子自立支援員に相談するのはとても敷居が高いという時、講座の紹介やさまざまな敷居の低い案内をしてくれている場所があるとありがたい。女性を支援してくれ

るところがあり、そこに行くとフェイス・ツー・フェイスでサポートしてくれる人がいる、その人が出来なくても適切な場所に紹介してくれるといった機関は必要である。幾ら福祉の専門家がいても、実際に来てもらい、つながりない限りはその方たちを支援できない。名称も含めて検討したらどうか。

■ 職場に相談できるような窓口がない時に、ここに行けば良いという事を教えてくれるナビゲーターがあったらいい。

■ 中心になってくれる人やお節介もやいてくれる人達の集まりを、応援する場になってくれれば良いのでは。つながりを大切にする場所。集うことが大切。

3. 今後の市民会議の進行について

「武蔵野市男女共同参画計画」の4つの基本目標と課題ごとに、各委員で分担を決め、次回以降、それぞれの課題について順番に発表し意見交換していく。

次回

平成19年12月13日(木) 午後7時～
武蔵野商工会館第1会議室

市民協働推進課

■第5回男女共同参画推進市民会議録

日時	平成19年12月13日(木) 午後7時～9時
場所	武蔵野商工会館第1会議室
出席者 (敬称略)	委員 岩城末子、大橋仁、小澤和彦、小野公一、菅野昭彦、工藤阿貴、 佐野純夫、千田有紀、高田素子、林朋子、三上かおり、吉川良子 事務局 男女共同参画担当職員、男女共同参画推進市民会議ワーキング スタッフ
議題	1 各分野での課題について(各担当者からの意見発表) 2 意見交換 3 その他
議事 要旨	(事務局) ワーキングスタッフの紹介 (各担当者からの意見発表) 1 「男女平等観に立った教育・学習の推進」における現状と課題 2 公的な支援と地域・家族の支え「武蔵野市で、女性の働き方(男性も含めて)や仕事と家庭の両立にどのような支援が考えられるのか」 3 政策・方針決定過程への男女共同参画についての検討 4 男女共同参画の意識づくり、計画を推進するための体制づくり (各委員からの意見) ■ 男女共同参画社会の実現のためには、子どもたち、教職員も含め、 教育・学校での学習の役割がととも重要であり、学校の職員については全員が研修を積み重ねていくべきである。

- 男女平等の観点からの教育と同時に男女それぞれの今ある性差に配慮しながら教育をすすめていかなければならないところがあり、難しいこともあると思う。
- 性教育や身体、健康の面等については、外部の専門家に入って教えてもらうなどの形を取り入れられないだろうか。
- 労働の場での男女共同参画において問題となっているのは、女性の不利な働き方であるが、市が特にパートタイマーなどを含めた非正規社員の部分へのサポートとして何ができるか。働く人のメンタルヘルスの問題は非常に大きく、特に過労死や過労によるうつ病などへの啓発活動は、市が担っていくべきだろう。
- ファミリーフレンドリー企業として国が表彰をしているが、同じような努力をしている中小企業について市が積極的に表彰していったらいいのではないか。
- 女性の仕事継続における障害の原因として、育児が4割弱あるが、これらを含めた家事負担をどう解消していくかという支援が必要である。
- 例えば、おやじの会などのように父親をいかに育児に近づけていくかのしかけづくりもいいのではないか。
- 精神的な支援としては、専門的なケアや初期段階で相談できる窓口やネットワークの形成、孤立している人への支援が課題となる。
- 物理的な支援としては、託児・保育を含めてすべてある施設をいかに使い勝手のよい形で運営できるかソフトの構築を考えていくべき。そのソフトの運営については、各種団体にどんどん委任し、そこに補助を出すという形を拡充していてもいい。
- 中小企業へのサポートとして、ファミリーフレンド企業について、税金の減税などを検討したらどうか。また地域での子育て支援として、子育て世帯への住民税の軽減などのアプローチはできないだろうか。

- 託児は顔見知りだと安心して預けやすいというデータがあるが、身近な地域単位でサポートできるセンターなどがあれば有効だろう。
- 男女共同参画計画については、国や都などとの役割分担を明確にし、市では、もっと生活に直結したものをやった方がよい。評価については、外部からの第三者評価を推進してほしい。
- 女性センターとしての専門的機能を確立することが必要だろう。運営は、外部の指定管理者に委ねる。専門的団体を設立することにより、地域の女性の職業的能力の育成にも役立つ。また、企業や社会的責任を代表するような団体が運営するということも考えられる。
- これからは、市民と行政だけではなく、企業も地域のメンバーという視点で男女共同参画を論じていく必要があるだろう。
- 民間活用はアイデアとして非常に面白いが、男女共同参画計画としては、民間活用のためのプロジェクトの設置などが考えられよう。
- NPO や民間活用については十分な議論をしないと、地域性から離れたりすることも考えられる。リーダー育成や組織の役割等をどのような位置づけにするかは重要だ。
- 男女共同参画計画については、市は何が武蔵野市における実際の問題や具体的な課題なのかをどのように認識しているのか。
- 計画については、具体的なモチベーションや目標がないとうまくまわっていない。PDCA のサイクルをきちんと回していないとならない。数値的な目標や、スローガンのようなものがあれば伝わりやすいのでは。
- メディアリテラシーの面で、現在あるものに対しての対抗的な教育プログラムのようなものを専門家から提供してもらおうシステムがあるといいのではないか。

<次回の市民会議>

男女共同参画の視点で人権が尊重される仕組みづくり及び男女共同参

	画の意識づくりについて、担当が発表し意見交換を行なう。
次回	平成20年1月23日(水) 午後7時～ 武蔵野商工会館第1会議室

市民協働推進課

■第6回男女共同参画推進市民会議録

日時	平成20年1月23日(水) 午後7時～9時
場所	武蔵野商工会館第1会議室
出席者 (敬称略)	委員 岩城末子、大橋仁、小澤和彦、菅野昭彦、佐野純夫、千田有紀、高田素子、林朋子、三上かおり、吉川良子 事務局 男女共同参画担当職員、男女共同参画推進市民会議ワーキングスタッフ 傍聴者 2名
議題	1 各分野での課題について(各担当者からの意見発表) 2 意見交換 3 その他
議事要旨	(事務局) ワーキングスタッフの紹介 (各担当者からの意見発表) 1 男女共同参画の視点で人権が尊重される仕組みづくり ・ 女性に対するあらゆる暴力の根絶 ・ 生涯を通じた男女共同参画担当の健康支援体制 ・ 女性のための相談事業の体制づくり 2 あらゆる分野への男女共同参画の推進について ・ 男女がともに担う子育てと介護について ・ 男女平等観に立った教育・学習の推進 ・ 情報化社会の推進に対応した情報収集・提供システムの充実 (各委員からの意見) ■ DVについては、迅速かつ専門的にスムーズに対応すべき。実際に

は、被害者はどこに相談していいかわからない状況にある。どこに相談するかわかりやすい仕組みづくりと、簡潔な対応マニュアルを作成する必要があるのではないか。

- 被害者などの社会復帰や立ち直りを見守る地域づくりが武蔵野市でできないか。
- DV関係機関による連絡会議など、顔が見える関係づくりが非常に大切。啓発には、暴力を許さないということを市の姿勢として示すべき。
- 女性が独自に自分自身の健康管理を把握するために、「レディース健康手帳」を作成してはどうか。
- 「新米パパサポート企画」などを市と企業が連携してできればいい。
- 相談窓口のネットワークには、中核機関がないと拡散してしまう。3層構造(関係機関代表者・中間実務担当者・支援者など)で情報交換などしっかりしたネットワークができていると、緊急時、長期的、個別的なケアができるといわれている。
- 相談については、たくさんある窓口を管理する中核機関として専門的なコーディネーターが必要。カウンセラーには民間機関などを活用して、中核となるコーディネーターの存在が重要だ。
- 働き続けるためには、妊娠期における女性自身の健康という視点が必要ではないか。レディース手帳というアイデアはいい。
- 石川県では、子育てのケアマネのような制度があり、妊娠から出産・子育てプランと一緒に立ててくれる制度がある。(＊「子育て支援プラン作成事業」2006年10月～)
- 教育現場での暴力防止プログラムでは、起きたことへの対応とともに予防教育も重要である。男性への啓発、予防教育ができればいい。
- DVに関しては、啓発活動が手薄ではないか。デートDVなどに関して

は、子どもの成長段階に応じて細かく対応していく必要がある。

- 安心して子育てをするためには、市の施策として企業への育児支援についてのインセンティブを高めることが考えられる。そのほか、補助金を始めとしたサポートが心理的にもコスト以上の効果をあげている。また、出産後確実に保育園を利用して仕事に復帰できるという安心感は重要だ。
- 妊娠・出産等について、必要なときにタイムリーに情報が入りにくかったりする。女性の生涯にわたるような、妊娠出産、また産む・産まないなどの選択も含めた冊子があればいい。
- 保育園の民営化について言われているが、市場にのりにくい事業であり、公立と民営では施設の面など格差が大きい。
- 男性の啓発は、具体的なインセンティブがないと難しい。ワークライフバランスをうまくできる制度上の整備ができないか。
- 男女平等観に立った教育・学習の場では、専門家による専門的なプログラムが必要である。
- むさしのヒューマン・ネットワークセンターについては、ウェブ上の情報の集積、検索可能な内容づくりのほか、情報格差解消のためモバイルでの情報提供が必要ではないか。

(事務局)

「武蔵野市人口推計結果報告書【概要】」について説明。

<次回の市民会議>

労働の場における男女共同参画と多様な働き方への支援、むさしのヒューマン・ネットワークセンターの活動支援などについて担当が発表し意見交換を行なう。

次回

平成 20 年 2 月 13 日(水) 午後 7 時～
武蔵野商工会館第 1 会議室

市民協働推進課

■第7回男女共同参画推進市民会議録

日時	平成20年2月13日(水) 午後7時～9時
場所	武蔵野商工会館第1会議室
出席者 (敬称略)	委員 岩城末子、大橋仁、小澤和彦、小野公一、工藤阿貴、佐野純夫、 千田有紀、高田素子、林朋子、三上かおり、吉川良子 事務局 男女共同参画担当職員、男女共同参画推進市民会議ワーキング スタッフ 傍聴者 1名
議題	1 各分野での課題について(各担当者からの意見発表) 2 意見交換 3 その他
議事 要旨	(各担当者からの意見発表) 1 労働の場における男女共同参画、子育てと介護における男女共同 参画 2 雇用の場における男女共同参画と多様な働き方への支援 3 情報化社会の推進に対応した情報収集・提供システムの充実、計画 推進体制の整備と強化、むさしのヒューマン・ネットワークセンターの活 動支援 4 ワークライフバランスと少子化対策を中心として (各委員からの意見) ■ 女性の社会進出には、保育施設の充実が必要である。そのために は、補助金を出すなどして、担い手を増やすしかない。保育ママなど にもその労働に見合うだけの補助的なものが必要だろう。 ■ フルタイムの保育ママは負担が大きい。短時間・単発の保育などを何 人かで請け負うような形にすれば、なり手も多く継続的システムとして

も充実するのではないか。

- 担い手がいたとしても、事故対応等のことを考慮してやめてしまうことが多い。行政がきちんとした保険の制度を確立し、それをきちんとアピールしていかないとだめだろう。
- 在宅でパート的な労働を望む人とそれを必要とする企業をマッチングさせる仲介的な窓口があればいい。ネット上でつなげてもいい。
- 武蔵野市の企業を対象にどのようなニーズがあるか把握すること、また就労に必要な環境整備に市が何かできないものか。
- 能力開発やスキルアップのために講習等を開催するなどして、社会に眠っているいわゆる専業主婦的な人の潜在的な女性のマンパワーを活用できないものか。
- 女性起業家支援のための情報提供が必要。実際に育児、家事、介護などに関わっている人の声を吸収して事業化するためのアイデアをもちより、ビジネスプランコンテスト的なものをやれば、起業に関する情報交換等にもつながるのではないか。
- 女性がほとんどだと男性は参加しづらいので、お父さん限定の講座等の事業も必要。お父さんのための家事・育児入門講座など。
- 固定的父親像を持つお父さんにとって、家事・育児に積極的にかかわる男性の存在を知ることが大事。
- 市民施設については、市民が利用しやすいように、地域制限、年齢制限などの見直しが必要な場合もあるのではないか。公園については、非常に使われているところと全く使われていないところがある。
- インターネット上で、労働、子育て、介護その他の統合的な情報提供の場があるといい。SNS がよいが、行政主体だとうまくいかない。行政は支援を行い、情報収集・提供の充実には、専門性のある民間の活用が不可欠である。
- 女性の社会進出に関する事業を行う企業に対し、企業表彰や認定制度を検討する。優遇措置など、企業にとってもはっきりとしたメリットがあった方が応募が増えるだろう。
企業の風土を変えるのはなかなか難しいが、市がその評価を広く周知することにより変えることができるかもしれない。
- 女性にとってチャンスが広がっているが、女性労働者の二極化が進んでいる。
- 育児休業の取得率の高い職場というのは、女性の採用や女性管理職も少ない。もともと女性が少なく男性によって基本的な部分は埋めら

れているため、女性が育児休暇をとりやすいのだろう。

- 男女共同参画事業が、市民活動や子ども施策などの中に潜らないよう、専門性のある位置づけと継続して施策を進めていく体制の整備が必要。
- 多様な専門家による啓発を教育現場や地域に活用する。
- 男女共同参画社会の実現のため、総合的に施策推進の指針として条例の制定が必要。
- むさしのヒューマン・ネットワークセンターを、市民活動としてではなく男女共同参画施策の協働の拠点として明確に位置づける。ボランティアに一方的に依存するのではなく、協働というビジョンを相互で事業的に立てる必要がある。
- ヒューマン・ネットワークセンターは、移転に伴いあらたな拠点のあり方と多様性のある場所を確保することが必要である。
- ワークライフバランスのためには、両性の自立と男性の意識と働き方、時間の使い方が大きな問題であるが、組織の中においては、個人の意識だけでは難しい。
- 安価で良質なゼロ歳児保育施設を充実させるべき。また、おじいちゃん、おばあちゃんのパワーをうまく使えないだろうか。
- 30～40代男女の共同参画の仕方や地域の子育て支援、再チャレンジのための社会環境整備が今後の優先課題となる。
- ヒューマン・ネットワークセンターの事業として、女性のためのライフキャリアデザイン、ソーシャルスキル習得、ライフキャリアカウンセリング、子育て中の女性のための就業・起業講座、起業を目指す女性のための交流サロン・インキュベーションセンターづくりなどが望まれる。
- 改正DV法で努力義務が課せられた、暴力防止支援センターの位置づけと、暴力防止・被害者保護のための施策の実施に関する基本計画の策定については、今後の課題である。

<次回の市民会議>

高齢者の自立と生活安定のための条件整備、社会的困難にある女性の生活安定と自立への支援、まちづくりへの男女共同参画、男女共同参画推進条例の制定などについて担当が発表し意見交換を行なう。

次回

平成 20 年 3 月 12 日(水) 午後 7 時～
武蔵野商工会館第 1 会議室